



乳用牛群検定普及定着化事業

検 定 組 合

牛群検定だより

第7号(2011.3)

発

発行元：(社)家畜改良事業団 電子計算センター

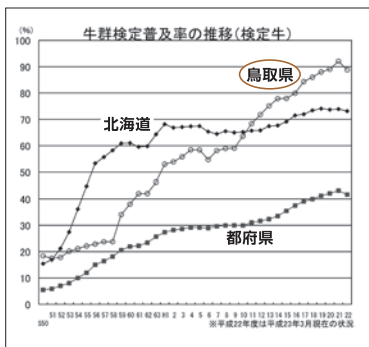
〒135-0041 東京都江東区冬木11-17 イシマビル18F

Tel 03-5621-8921(直) FAX 03-5621-8922

e-mail: webmaster@liaj.or.jp URL: http://liaj.lin.gr.jp/

原料(生乳)に勝る製品なし

鳥取第一、第二、第三検定組合



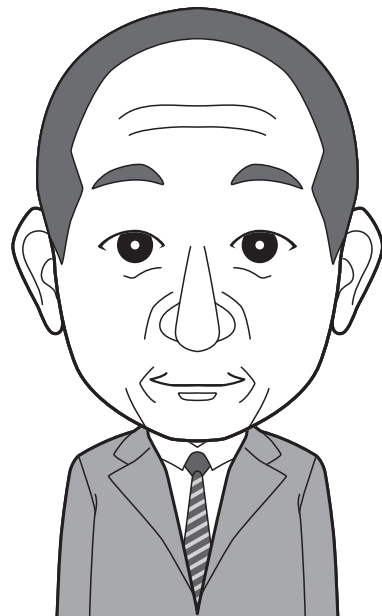
鳥取県内の牛群検定は、大山乳業農業協同組合が事業主体となり、鳥取第一、第二、第三検定

組合の3組合で実施されている。

特筆すべきは、全国47都道府県の中で、牛群検定普及率が農家割合で76%、牛の割合で89%と全国一位を誇ることである。

上図に鳥取県の牛群検定普及率(検定牛)の推移を示した。大山乳業農業協同組合の幅田信一郎代表理事組合長は、「牛群検定普及率を上げるために何かをしたというより、牛群検定加入農家の多くが残った。」と控えめなお話であった。しかし、その源流には「原料(生乳)に勝る製品なし」を合い言葉に牛群検定を中心とした徹底した乳質改善への取り組みがある。現に平成23年3月時点の鳥取県の過去1カ年の体細胞数は17.8万/mlであり、都府

県の27.1万/mlを大きく引き離している。この内訳を見ると、鳥取県は体細胞数7万/ml以下の牛の割合が全搾乳牛の55%(都府県平均では44%)を占めている。このことは、衛生的な牛舎における健康な牛づくりという今最も求められていることを実践している証でもある。消費者も取り込んだ長年のこういった取り組みが評価され、平成15年には畜産大賞も受賞している。



幅田信一郎組合長



検定組合の概要と活動

1. 検定組合の事務局は、大山乳業農業協同組合本所工場内にある。



事務局のある大山乳業本所工場

2. 牛群検定中にサンプル瓶を探しやすくするため、サンプル瓶の配置を示す一覧表を作成し、活用している(右写真)。



3. 検定組合に電子乳量計(ラクトコーダー)が導入されており、搾乳手順など衛生的乳質のさらなる改善を図っている。

4. 牛群検定の実施状況

	第一検定組合	第二検定組合	第三検定組合	計
管轄地域	中部	西部	中部・東部	
酪農家戸数	76戸	55戸	49戸	180戸
検定農家戸数	57戸	45戸	35戸	137戸
検定員数	11名	5名	12名 (第一組合と重複あり)	20名
一人平均受持	農家戸数 6.9戸(137戸÷20名)			
	検定頭数 296.9頭(5,939頭÷20名)			
検定牛頭数	5,939頭(平均43.4頭/戸)			



牛群検定農家を支える酪農指導部

1. 鳥取県は、検定立会の多くを農協職員が務めているところに特徴がある。すなわち、指導部門の職員が搾乳の現場で、自らが指導した結果が生乳として収入に変わるその場に立ち会っている。指導部門は直接儲けを生まないが、しっかりと鳥取県内の酪農を支える部署として大切な役割を果たしている。



左から馬野部長、造田課長、今吉課長補佐

2. 全国的な傾向であるが、最近は酪農家が自分で情報を集めやすくなり、講習会や勉強会への参加が減ってきている。酪農家も相当勉強しているので、指導部職員も問題解決の技術、スピードの向上が要求されている。現場へ足を運ぶときは、事前にアポイントメントを取り、できるだけその場で解決して帰ってくるのが基本方針。そのためのツールがどこでも**繁殖台帳Webシステム**を参照できるモバイルパソコン、携帯用プロジェクタ、携帯用スクリーンである。4セット分が酪農指導部に導入されている。



3. 繁殖成績の向上により牛に負担をかけずに高乳量を目指す谷永牧場(上、右上写真、経産牛80頭)では、次のような手順

で課題解決の為の提案がなされた。

- (1) 牛の状態、TMRの状態、飼料の貯蔵状態の観察
- (2) **繁殖台帳Webシステム**による牛群検定成績の把握



- (3) 電子乳量計(ラクトコーダー)計測値の分析
- (4) 搾乳手順改善指導、飼料設計値の変更指導

4. 大山乳業農業協同組合では衛生的乳質の改善について、体細胞数1ml当たり15万個台を目標としており、その解決を図った農家に対しては、より繁殖成績の向上、長命連産型の寿命の長い牛づくりを目指して、交配指導や雌雄判別精液の利用による牛群の管理指導が行われている。



詳細はLIAJニュースNo.126
(<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kikansiset.html>)まで



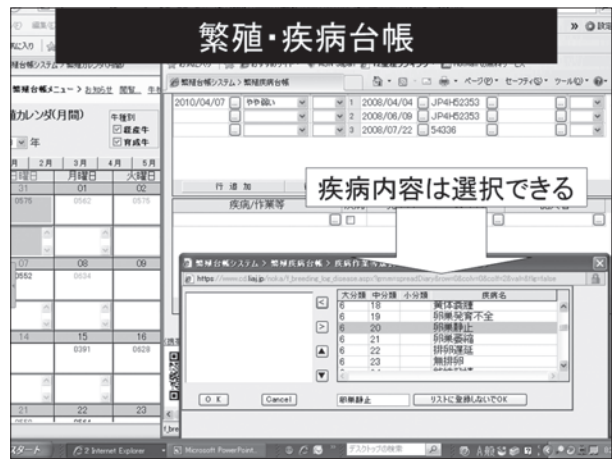
牛群検定にイノベーション



鳥取県における繁殖台帳Webシステムの利活用について！

利活用1 繁殖疾病台帳！

繁殖カレンダーの牛番号を選択すると、繁殖・疾病台帳(詳細データ)を呼び出すことができる。繁殖と疾病の情報が一つであれば、「個体あるいは牛群で」、「過去あるいは現在の飼養管理に問題があるのか」が判断しやすい。鳥取県では携帯電話を繁殖疾病情報の入力端末として利用するため、利用を希望する農家を対象に携帯電話の講習会を開催した。

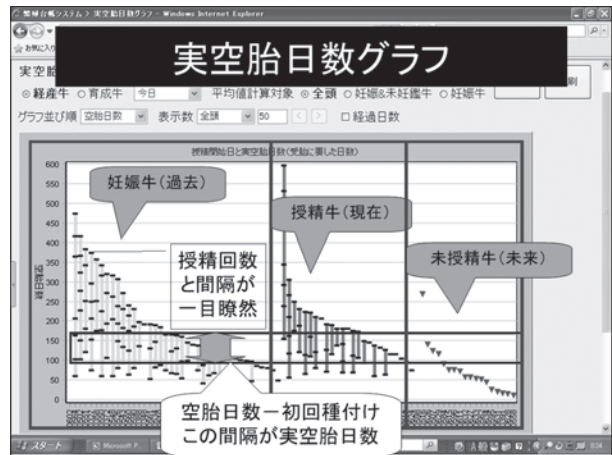


利活用2 実空胎日数グラフ！

後継者の教育機関を取材するため訪問した鳥取県農業大学校(経産牛18頭)では実空胎日数グラフ、年間管理情報(繁殖情報)グラフを活用し教材「検定成績で見る農業大学校」を作成、利活用している。ここでも牛群検定がしっかりと根付いていた。

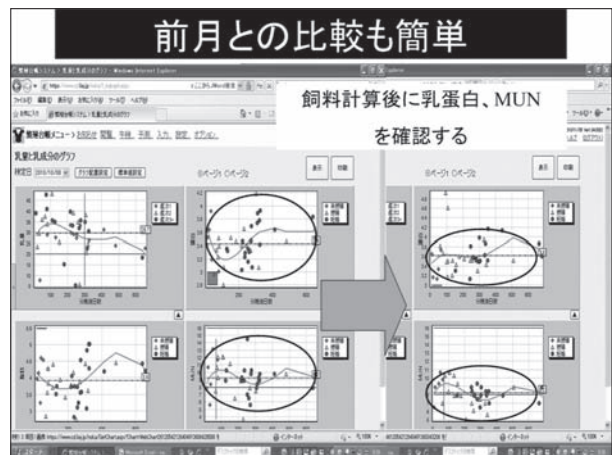


奥村 敏広教授
(鳥取県農業大学校)



利活用3 乳量と乳成分のグラフ!!

鳥取県で最もよく使われている画面は、乳量と乳成分のグラフである。例えば左図では、蛋白質率とMUNについて、前月と今月のデータをエクセルに貼り付けて比較している。左右のグラフを見比べると牛群の検定成績のバラツキが改善され、安定した様子がうかがえる。



繁殖台帳Webシステムの詳細は

<http://liaj.lin.gr.jp/japanese/cd/cd-info.html> まで